

太宰府の文化財

426

古代都市の下に眠る弥生のムラ

朱雀2丁目(大宰府条坊跡第331・333次調査)

古代の遺跡として知られる大宰府条坊跡の範囲内では、古代だけでなくその前後の時代の遺構・遺物も多く確認されています。今回はその中から、2019年度の発掘調査で見つかった弥生時代の集落跡について紹介します。

場所は、西鉄二日市駅の北東側、朱雀2丁目一帯の丘の上で、般若寺丘陵と呼ばれます。今回の調査で見つかった弥生時代の主な遺構は、円形

の竪穴住居の痕跡1棟分と、貯蔵穴5基のほか、ゴミ捨て穴などです。

貯蔵穴は、食材を保管するために地下に掘られた大きな穴で、フラスコのように下の方が膨らんだ形に広く掘られる傾向があります。調査で確認された貯蔵穴は、上部の直径が1.1～1.5mなのに対して、底面の径は1.5～2.18m、深さは最も深いものでは2.4mでした。一緒に見つかった竪穴住居跡が柱穴のみの検出であることから

も分かりますが、この場所一帯は過去の宅地造成に伴って元の地形が削られたため、貯蔵穴も本来はもっと深かったものと考えられます。スコップなど現代の道具を使っても掘り下げるのに数日を要したので、およそ二千年前の弥生時代当時は木や石製の道具を使用し、さらに長い日数を費やしたことでしょう。

今回確認された住居は1棟だけでしたが、おそらく貯蔵穴に近接して数棟が存在したと考えられます。また、今回の調査地点の他にも般若寺丘陵上では同様な貯蔵穴が数カ所確認されており、この丘の上一帯に弥生人が暮らしたムラがあったことがうかがえます。

古代都市・大宰府の条坊内では、般

若寺丘陵の他にも弥生時代の土器や石製品が出土した地点がいくつもあります。ぜひ、大宰府が成立する以前から人々が暮らしていたことに思いを馳せていただけたらと思います。

文化財課 遠藤 茜

お知らせ

11月20日(日)まで文化ふれあい館にて、今回紹介の発掘調査をはじめこれまでの調査の出土品の一部を展示しています。この機会にぜひご覧ください。



調査地位置図(国土地理院地図に同院陰影起伏図を重ね、加筆したもの)
盛り上がったように見える部分が般若寺丘陵です。



大宰府条坊跡第331・333次調査区全景合成写真(上が北)



貯蔵穴(第331次調査)



調査で出土した弥生土器と黒曜石の鏃
土器は、弥生時代を前・中・後に分けたうちの前期の後半期のものです。